

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100018		
法人名	有限会社 釘本		
事業所名	グループホーム 青空		
所在地	佐賀県佐賀市神野西4丁目12番12号		
自己評価作成日	平成23年1月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成23年1月17日	外部評価確定日	平成23年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>商店街や民家が立ち並び、ホームの向かいの公園は日常の散歩コースやスポーツ活動のサークルも活発に行われホームの利用者も見物・応援等に参加して馴染みになって根付こうとしている。運営推進会議のメンバーには自治会長、民生委員の方にお願ひし地域の理解と協力を得るよう心掛けている。地域の祭りにも積極的に参加させて頂いている(夏祭り、くんち等)。天候と利用者のコンディションが良い時は戸外に出るように計画に入れて季節を楽しんで頂いている。行事食を献立し、利用者と介護スタッフで近くの馴染みになった商店に買い物に行きケーキ作りや調理を楽しんでいる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>民家を改修したホームである。それだけに家庭的な雰囲気と近隣との結び付きがより強いホームでもある。施設長は同じ屋根の下で生活しており、自らが経験していた夜間訪問介護等で聴いた利用者の心からの願ひや叫びを日常の運営に活かしている。市街地の一角にあり、住宅街、商店、公園、学校などが近くにあり、利用者にとっては住み慣れた町や生活のにおいを感じる事が出来る。また、地域との関わりを積極的に持っている。自治会に加入し、運動会等の地域行事や清掃作業に利用者も職員と共に参加している。日常の介護、支援にあたっては利用者の尊厳を最大限に尊重する事を基本にしている。利用者や家族の願ひや思い、要望をケアに活かし、利用者のリズムで一日がゆっくりと流れている。希望による外出にはタクシーを利用しており、職員も安心して支援にあたる事が出来ている。その結果、利用者の願ひであった夜間のバルーン係留見学も行われている。勤務時間体制においては、早出の時間帯を工夫し、朝の勤務者数を手厚く配置する事によって、利用者の支援がより充実している。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム名「あおぞら」を頭文字として、家庭的な環境でその人らしさを大切に、地域に貢献することを理念にうたい事業所全体で共通理解し努めている。	地域に信頼され、地域に貢献できるホームづくりをめざしながら日常のケアに努めている。定例の会議や打ち合わせの時だけでなく、管理者は常時機会を捉えて理念を指導している。開設時の理念を地域密着の観点から全職員で再検討し、常に理念を意識しながら介護支援にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	可能な限り(ふれあいサロン、地域の行事や祭り見物、又老人会等集会に参加)地域交流を取り入れるよう努めている。	地域との交流を積極的に心掛け、地域に出向いて相談に乗ったり、啓発に努めている。自治会にも加入し、清掃作業、運動会など地域の行事にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	神野地区の民生委員さんに声掛けして地域の集会に参加して認知症や介護について話をしたり利用者に迷惑にならない範囲で見学を受け入れて理解を得るよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市の地域包括支援センター、民生委員自治会、家族、入居者などの出席で2か月に1度実施している。自己評価や外部評価の報告を行い、出席者からの意見も出て、職員はサービス向上の機会と捉えている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に開かれている。サービス状況や利用者の暮らしの報告、研修会の報告、地域との関わり、ホームの課題等色々な事が話し合われている。委員からも活発な意見や要望が出されている。防災マップの活用や地域行事への参加等、地域との結び付きにも活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの課題や問題点など市へ相談する機会を作り、理解を得るよう努めている。またホームヘルパー養成の実習学生の職場体験の受け入れなど、場所の提供をしている。	事業所が抱えている課題について行政当局と共に解決に取り組んでいる。感染症予防や対策について具体的に話し合ったり、地域で開かれるウォーキング大会に、事業所が出来る範囲内で協力する等、行政との連携が保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての問題事例など回覧し共通理解に努めている。日中は玄関に鍵をかけておらず、自由に出入りできる。外出される時は職員が寄り添っている。いつでも散歩できるようにして、入居者が個人で出られることが少なくなった。	これまで身体拘束の事例はない。心の拘束もない様に、尊厳の面からも常に心がけている。身体拘束の具体的な例を取り上げ、何気ない行為でも拘束にあたる事がある等勉強会で共通理解に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての講習会や研修会に参加し事業所内で報告書を回覧し虐待について認識をし尊厳あるケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人情報にも関連している事項ではあるが権利擁護に関連する事例があるときは、カンファレンスで取り上げて話し合う機会を設けたり、研修会に出席している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族には十分な説明の時間を設け、理解と納得をされてから結び、改正時は利用者やご家族からの不安や疑問点は相談窓口を設けて対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見や要望など窓口を設け対応し、2か月に1回の推進会議には受け付けた事項とホームの対応を報告し、問題事例は判断やアドバイスを頂いている。	家族会もあり、職員の相談しやすい雰囲気や対応とも相まって、出された意見や要望を運営に活かしている。リハビリに対する要望を生活リハビリや日記的な様式に変えて取り組む等、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営関連事項は、出来るだけ職員に相談して意見や要望を聞く機会を設けている。	管理者と職員は常時意見を出し合い、それを運営に活かしている。利用者の外出の際、タクシーを利用して安全面の不安や緊張を解消したのもその一例である。また、写真を撮る目線を例にしてケアの心を話し合う等、サービスの質を高める努力をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のスキルアップを考慮し積極的に研修や講習会に事業所負担で参加させている。又残業は管理者が認めたものだけ認め、他は原則禁止する。シフトで色分けして退社時間を意識づけしている。就業規則の説明を職員にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップを考慮し能力に応じた研修や資格取得の講習会の参加の機会を設けて介護の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、責任者の資格を有する職員には同業者と交流する機会をつくり、又勉強会や相互訪問等の活動を通じてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話を傾聴したり、バリデーションで不安や要望、課題を把握し、ご本人の安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等が困っていること、不安や要望等に耳を傾け課題の情報収集に努め、ご家族との信頼関係を築き、打ち解けて話せるような雰囲気を作り、話し合いを持ちながらケアプランを作成し、不安が軽減されるサービスを提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	中立の立場でご本人やご家族の話に傾聴し、必要としている支援を見極め信頼関係を築きながらサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添い、家庭的な生活空間、安心して生活できる馴染んだ環境の提供に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	中立な立場で家族に対応し、家族の抱えている介護上の問題等を相談できる信頼関係を築き、本人と家族の絆を大切にし御本人の家族に対する気持ちを知らせたり触れ合える機会を提供できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人の築きあげてきた馴染みの人間関係をホームの職員も大切にしよう管理者は伝え、また面会頂いた馴染みの方々には影ながらお礼のはがきを出し、御家族には報告する。	ラジオで流された利用者の息子さんの声を訪ねてきた友達と一緒に聞いたり、行きたい所の希望で一番多いお墓参りの支援をする等、これまでの生活歴や心の奥にある思いを大事にしている。また、面会に見えた馴染みの方に感謝の手紙を出して、関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	平等に声かけをして利用者同士が仲良く助け合って過ごしていただくように行事、外出等計画し、楽しく過ごして頂くように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでのかかわりを大切にしながら、本人、家族の経過を見守っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時にご本人、御家族より話を聴きアセスメント及び介護計画に記載している思いや希望は平等に対応するように努めている。	入居時の諸情報だけでなく、入居後の行動、何気ないつぶやき、話などからも利用者の思いに寄り添いながら支援している。本人にとっては、納得のいかない入居にも丁寧に対処している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人、御家族より話を聴きアセスメントに記載している興味を示されることを把握し、馴染みの暮らし方の継続に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の記録をとり、排泄、入浴、食事、安静、服装を確認できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や家族の要望を聴き、医師、看護師、ケアマネージャー、栄養士との話し合いを行い、月1回のカンファレンスにて介護スタッフの意見を聞き、介護計画を作成している。	利用者の視点に立った具体的な介護計画である。全関係者が利用者や家族の要望を踏まえて意見を出し合い、計画が作成されている。また、随時、見直しも行われ、現状を反映した計画でもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアマネージャーは全部の書類に目を通し、個別記録や、月1回のカンファレンスにて1月の様子や変化にあわせた介護の方法を話し合い、共通理解をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状態に応じて、家族対応が出来ない時には、可能か限り職員が対応し柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園でグランドゴルフを楽しまれている方と話したり、その様子を見ながら職員と散歩を行っている。近くのスーパーでは職員と一緒に買い物をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理看護師によりかかりつけ医師との連携体制が整い、体調不良時は直ぐに連絡がとれるように体制をとっている。	利用者や家族の希望によるかかりつけ医であるが、全員、協力医療機関での受診である。週1回の往診だけでなく、夜間でも往診があり、利用者や家族も安心している。訪問歯科医を含めて、協力医療機関とは、何時でも相談できる体制にある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	まめに連絡報告を行い、情報を共有し、必要時すぐに受診看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院側と良く相談し面会を頻回にしながら、不安除去に努めている。又退院時、担当医師より退院後の体調管理の支持を受け家族にも知らせる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	話し合いは早い段階で行っている。主に家族に事業所で出来る範囲の事を理解していただき、最善の方法を考え、満足のいくケアにつなげるように援助している。	指針を基に入居時に納得のいく話し合いがもたれている。その後も利用者本人の状況の変化や家族の気持ちの変化に応じて、主治医とも連絡を取りながら、話し合いがもたれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、いくつかの事例をあげて急変時の対応を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回避難訓練を実施、防災避難マニュアルを作成し職員全員が避難経路を知り誘導できるように努めている。又避難訓練時は周辺住民の方々にも実施要項を配布し、理解と協力を求めている。	毎月、避難手順や避難経路、場所を確認する退避訓練を実施している。また、消防署の指導を受ける避難訓練も、年に一回実施している。近所や地元の消防団にも協力を呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳ある態度で対応する。	利用者のその人らしい尊厳ある姿を大切にし、敬意をもった支援である。さりげない支援や言葉かけがいたる場面で見受けられ、利用者と同じ目線で接している。個人情報の保護も十分に配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	季節感を味わう自然観賞に出かける時、希望を伺って外出計画を立てている。食事のリクエストを聞き出来る範囲で取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に出来るだけ添えるよう援助しており、家族の協力を必要とする場合は協力して頂くよう働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて本人の好みの服を共に選び、整容も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストカードを作り、食べたいものを伺いメニューに入れている。切る、包む、丸める等、出来ることは一緒に行って料理を楽しんで頂く。	職員もさりげなく支援をしながら一緒に食事を摂っている。利用者の要望や嗜好を取り入れた献立であり、高齢者向けの薄味の食事でもある。刺身や鯉こくの要望に応えたこともある。管理栄養士の指導も受けている。食材買物、野菜の下ごしらえ、盛り付け等を職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を作り水分補給に努めている。又毎食時、10時、15時には水分補給を必ず行い、それ以外でも適宜水分補給をしている。栄養士によるメニューで食事の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。義歯の方は必ず外して行っていただく。夜間口腔ケア後義歯を洗浄液につけて衛生管理に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックの表を作成し、トイレの回数、時間帯をチェックしており、声掛けして失敗のないように誘導に努めている。	排泄に関する情報が一人ひとり把握されている。自尊心に配慮しながらの声かけや誘導によるトイレでの排泄に努めている。失敗があってもさりげなく声をかけて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにより排便の有無を調べ、水分摂取や食物繊維を摂るようにメニューを工夫し改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴は可能であるが、体調を考慮し、又何日も入浴されていない方は声掛けして入っていただく。無理に入浴は勧めない。	風呂は毎日準備されており、一人ひとりの希望に応じた支援が行われている。毎日、入浴する利用者もある。夜9時までは入浴の希望に応え、ゆっくりと入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室での休息は自由にとって頂き、夜間は安心して休んで頂くよう巡回をする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理看護師により入居者の服薬情報を全職員に伝え、服薬の重要性を認識し健康維持の支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理が好きな方は食事の準備を手伝って頂く。又自分で洗濯物を干したり畳んだり、花が好きな方は毎日水やりをされたいる。編み物が好きな方は簡単な編み物をされ、皆さんに差し上げたりされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物等希望される時はスタッフが付き添いでホーム周辺の商店、馴染みの店に外出支援している。普段は行けないような場所にも可能な限り計画して外出支援をしている。	日常は、近くの公園を散歩したり、商店で買い物をする等、利用者は自分の希望で外出している。外出先希望のリクエストカードがあり、外食や映画、バルーンの夜間係留やライトファンタジーのイルミネーション見学等も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室に財布を保管されている方もあるが、家族が事前に申告されていて金額の把握をしている。近くのスーパーへお買い物に同行する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族の都合の良い時間を把握して本人が希望される時は電話の支援をする。荷物が届いたときは、お礼の電話を入れて頂いたり、ホームも確認の電話をする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に努め季節の花を利用者と飾ったり、季節感のある飾りをして環境整備をしている。ゆとりのある空間づくりをしている。	みんながくつろぐ居間兼食堂は、ソファが幾つも置かれている。テーブルや椅子は木製で家庭的な雰囲気がある。天井が高く適度の明るさの中で、利用者はゆったりと過ごしている。室温や湿度にも配慮してある。ウッドデッキからは町並みや公園、人通りを見渡す事ができ、生活場所を実感できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で好きなことをしてゆったりと居心地良く過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた道具や馴染んだ物、アルバム等を持って頂いて気分が落ち着いて頂くように支援する。	それぞれの居室がその方らしい環境づくりになっていて、利用者は自分の家の感覚で安らぎをおぼえている。仏壇、家族の写真、趣味の手芸道具、馴染みの筆筒や椅子、お気に入りの外出用のバッグ、その他色々な物が見られ、一人ひとりに応じた支援が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、入浴場所などの表示や居室の目印をつける等、自発的に移動ができるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない